

指定管理者評価シート

事業名	生涯学習センター運営管理費	所管課(電話番号)	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課(211-3871)
-----	---------------	-----------	-----------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市生涯学習センター (札幌市教育センター開放施設を含む)	所在地	西区宮の沢1条1丁目1-10
開設時期	平成12年8月25日	延床面積	12,106㎡
目的	市民に自主的な活動及び交流の場を提供し、生涯にわたる学習活動を総合的に支援することにより、豊かな生涯学習社会の実現を図る。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する学習機会の提供及び指導者等の人材育成に関すること。 ・生涯学習に関する調査、研究、企画立案及び啓発に関すること。 ・生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関すること。 ・生涯学習に関する事業を行う団体の連携及び交流の支援に関すること。 ・学習成果の発表及び鑑賞の支援に関すること。 ・生涯学習センターの施設を使用に供すること。 ・その他生涯学習センターの設置目的を達成するために必要な事業。 		
主要施設	ホール、講堂、研修室、音楽・演劇スタジオ、メディアプラザ(図書、視聴覚、学習相談コーナー)等		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由:当該施設は、札幌市における生涯学習施策を推進していくための総合的な中核施設であり、指定管理者には生涯学習に関する専門的な知識や事業の企画立案に関するノウハウが必要であるとともに、運営管理にあたっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成が必要であることから非公募とした。		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸室業務、学習機会提供事業、学習活動支援事業等		
3 評価単位	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和元年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1)統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定		A B C D
	▼ 学習ニーズを踏まえた市民参画による魅力的な事業を推進した。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針に基づき、管理運営を実施することができた。 ・利用者をはじめ市民からの要望等を踏まえ、学習成果を生かす場を充実させるなど、市民ニーズに応える事業を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な管理運営により要求水準を達成していると認められる。 また、生涯学習センター他3施設からなる生涯学習総合センターの施設管理においても、統括的な役割を果たしたことについては評価したい。
	▼ 有機的なネットワークの形成と学びのコミュニティを創造した。	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業や行政機関、専門機関などと連携し、それぞれの持つノウハウとネットワークを生かした、高度な学習機会を提供することができた。 ・ご近所先生企画講座において、講座後のサークル化を積極的に促し、受講者間のつながりを継続できるよう支援した。 	
	▼ 創意工夫による効率的・効果的な事業運営と施設運営を継続した。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の多種多様な学習活動に適した施設利用方法を提案することや、計画的修繕等を実施することで利用者の利便性向上と安全確保を図ることができた。 	
	▼ 身近な地域で学びを深める環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の図書館や都心の図書・情報館と連携した学びの機会を積極的に展開した。 ・市民が講師となるご近所先生企画講座では、講師となる市民自身の知識・特技・経験を生かした講座を市内各地で展開した。 	
▼ 快適に利用できる施設環境の整備と利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した館内の整備を日常的に行った。 		

<p>▼ 障がい理由とする差別の解消の推進を行なった。</p>	<p>・館内各所のスロープや手摺りについて日常整備を図った。 ・HPはウェブアクセシビリティを考慮した。</p>	
<p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p>		
<p>▼ 貸室の平等利用を図るため、毎月抽選による受付を実施した。抽選受付は先着順とし、受付方法についての効率化やわかりやすい説明を心がけた。3月は新型コロナウイルス感染症防止対策のため、電話(先着順)にて受付を実施した。</p>	<p>・関係条例や規則の遵守に努め、平等利用の原則を確保することができた。</p>	<p>・平等利用は公の施設の運営における要であるため、引き続き、利用者への丁寧な説明を続けながら、平等利用の確保に努めていただきたい。</p>
<p>▼ 講座の受講機会の平等を図るため、受講希望者多数時にはコンピュータによる自動抽選を実施した。</p>		<p>・また、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、受付方法の変更を余儀なくされる可能性もあるため、引き続き、感染状況を注視し、柔軟な対応に努めていただきたい。</p>
<p>▼ 多くの市民に情報を提供するため、HPや広報誌の発行などの広報活動を行った。</p>		
<p>▼ 貸出ロッカーについて、広く利用者が平等に利用できるよう、抽選方式を採用した。</p>		
<p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p>		
<p>▼ 事務用品について、リサイクル商品や、詰め替えで再利用できるものを積極的に使用し、ゴミの軽減に努めた。また、再生紙利用の推進、資源回収によるゴミのリサイクル化など環境配慮に努めた。</p>	<p>・リサイクル品の購入や、ゴミのリサイクル化、冷暖房の節約などに努め、可能な限り環境に配慮するよう努めた。</p>	<p>・日常的に省エネ策に取り組む姿勢は評価できる。 ・換気の徹底など、感染症対策も必要となることから、適宜、省エネ対策を見直しながら運営に当たっていただきたい。</p>
<p>▼ 過剰冷房・暖房を控え、事務室の設定温度の上・下限を定めるとともに、5月～9月はクールビズ、11月～3月はウォームビズを実施した。また、貸室においても、利用者に対して設定温度での空調利用を要請した。</p>		
<p>▼ 利用者に支障が生じない範囲で、館内の照明間引きを増やし、トイレの便座暖房の抑制、使用していない部屋の照明の消灯を徹底するなど、節電に努めた。</p>		
<p>▼ 空調機の断続運転や外気導入量の制限をするなど、省エネ診断でアドバイスをいただいた取組を実施し、更なる環境配慮に努めた。</p>		

<p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 統括管理責任者としてセンター長を配置した。組織体制は、総務・施設管理部門として施設課を、事業部門として事業課を置き、それぞれの責任者として課長を配置した。 ▼ 業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を定めた。 ▼ 係単位で定期的に会議を行い、様々な問題について協議するとともに、文書やメール等により職員間での情報を共有することで、市民サービスの維持向上に努めた。 ▼ 人材育成のための研修を実施するとともに、外部研修等に参加した。また、企画立案に関わる職員の研修参加に努めた。(研修会参加一覧参照) 	<p>業務を迅速かつ正確に行えることを考慮した人員配置を行った。</p>	<p>・感染症を含む突発的な出来事への対応のためには、連絡系統や指揮命令系統を整えることがより一層重要となる。引き続き、各種シミュレーションを進めながら、迅速な対応ができる組織体制の確立に努めていただきたい。</p> <p>・生涯学習センターは本市生涯学習推進の中核施設であり、今後は人材育成、情報発信といった地域の生涯学習に携わる個人や施設・団体を支援する機能が一層求められていく。 この役割を果たすためには、センター職員の資質向上を欠かすことはできないため、社会教育主事講習等、積極的に職員が外部団体等の研修に参加できる風土づくりを進めていただきたい。</p>
<p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ グループウェアの運用 ▼ 会計・財務システムの運用 ▼ 貸室受付システムの運用 ▼ 事故対応要領に基づき、事故防止、事故発生時における、組織内の役割分担、緊急連絡体制などを整備し、迅速かつ適切な対応を心がけた。 	<p>・各システム等の適切な運用により、管理水準と利用者の利便性の向上に努めた。</p> <p>・職員全員が事故防止を心がけ、安全確保を図ることができた。 ・連絡体制を整備し、各関係団体とも連携を取るよう努めた。</p>	<p>・施設設備の故障等については、いつ起こっても必要な報告ができるよう、引き続き体制の整備に取り組んでいただきたい。</p>

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼ 貸室利用受付時においても暴力団員または関係事業者を相手方としないよう確認している。

▼ 警備・清掃・施設管理などの委託業務において、日報、月報、報告書により管理状況を確認するとともに、適宜打合せを行い、現状の把握と今後の対応などの情報交換を図り、迅速かつ適正な維持管理に努めた。

・委託業務に係るマニュアルに基づき適正な管理をすることができた。
 ・「札幌市暴力団の排除の推進に関する条例」「暴力団の排除にかかる照会事務マニュアル」を遵守し、委託業務等の適正な履行を確保することができた。
 ・故障、破損等の早期発見や、不審者への対応の協議など、日常的に情報の共有が図れることにより、適正に業務を監督することができた。

・第三者への業務委託について、指定管理者制度上、その実施責任はすべて委託者にあることを十分に認識し、適切な指導監督に当たっていただきたい。
 また、委託者として説明責任を十分に果たすことのできるよう、正確な情報伝達、委託業務の履行確認を徹底していただきたい。
 ・再委託、再々委託による連絡系統の細分化により、責任の所在や緊急時の対応に遺漏が出ることはないよう、指揮命令系統について定期的に確認を行っていただきたい。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 (7月19日)	委員6名参加 ・当該年度4-6月事業報告 ・前年度利用者アンケート集計結果と回答について ・当該年度4-6月苦情要望等の整理・分析 ・情報発信について
第2回 (11月13日)	委員6名参加 ・当該年度7-9月事業報告 ・当該年度7-9月苦情要望等の整理・分析 ・開放部屋の実施時期の変更について
第3回	新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し中止
<協議会メンバー> ・札幌国際大学教授 佐久間章 ・西のコンサ通り商店会会長 安田敦司 ・さっぽろ市民カレッジ講師 竹田慎一 ・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会札幌エルプラザ公共4施設館長 齊藤隆弘 ・札幌市教育委員会生涯学習推進課長 中目晃嗣 ・札幌市生涯学習センター長 嶋内 明	

・情報発信については、R1年度から始めたLINEによる広報の運用方法のほかに、ターゲットを絞った広報媒体の工夫、市民が利用しやすいHPについてなど、幅広い意見・提案をいただきました。
 ・開放部屋の実施時期の変更については、利用実績に基づいた運用を行うことについて賛同するご意見をいただきました。

・限られた開催回数の中で有意義な協議を行うためには、期間の隔たりなく協議会を開催することはもとより、協議前提となる事業報告と事業実施結果の分析が重要である。
 そのため、日常的に統計資料から課題を洗い出しするなど、モニタリング機能の強化を図っていただきたい。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。
- ▼ 流動性や利回り等に配慮し、金融機関及び金融商品の安全性に一層留意した対応を行っている。また、資産の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。
- ▼ 「経理面での不正防止対策について」及び「小口現金取扱要領」に基づき、現金残高、銀行口座、郵便振替口座の確認、領収書の作成及び保管、金券類、小口現金の管理を行い、適正な事務処理の徹底に努めた。

▽ 要望・苦情対応

- ▼ 要望・苦情に対しては、利用者ニーズとして記録し、速やかな対応を心がけた。また、毎月届いている要望等を職員で供覧し、情報の共有に努めた。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

- ▼ 利用者アンケートや各事業の受講者アンケート等によるセルフモニタリングを実施した。利用者アンケート等での要望・意見については、所管局とも連携し適切に対応した。
- ▼ 札幌市の業務財務検査に関しては、記録・帳簿等の適切な整備保管状況など概ね要求水準を達成したかなどについて、自己チェックを行なった。

・所管部局による検査及び公認会計士による外部監査の結果、適正に管理しているとの評価を受けることができた。

・意見、要望、質問について迅速な回答と対応ができた。
・施設に寄せられる意見の中には、回答先が不明なものもあるため、施設としての考え方や対応を利用者に伝えるために、ホームページ上に回答コーナーを設け、できるだけ多くの意見等に対応できるよう取組を進めた。

・利用者アンケート等により、利用者の施設利用に関する要望・意見等を把握するとともに、苦情等の整理・分析を行い、その結果を運営協議会に報告した。そこでの協議結果を踏まえ、利用者目線に立った迅速な対応を心がけた。施設の使いやすさについても、鍵とともに貸室までの案内図や利用案内を渡すなど、可能な限り利便性向上のための取組を進めた。

・財務に関する不祥事を防止するためには、定期的な外部監査だけでなく、職員間での日常的なチェック体制の確保を欠かすことはできない。
引き続き、各種要領に基づき、徹底した適正管理に取り組んでいきたい。

・要望や苦情に対して適切に対応し、そうした声を業務改善につなげていくためには、業務の根拠となる仕様書やマニュアルの内容に精通している必要がある。
そのため、こうした施設の考え方を利用者に伝えていく取組と併せて、根拠を意識した業務実施に努めていきたい。

・記録・モニタリング・報告・評価については、単年ごとの評価だけでなく、過年度と比較し、そこから見える傾向や変化を捉え、それを業務に反映させていくことが重要である。
これらの取組を根気強く継続し、より良い施設運営につなげていきたい。

<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなどし、適正な労働環境の確保に努めている。また、法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。 ▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランスPlus取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めた。 ▼ 新型コロナウイルス感染症対策として、特別休暇や在宅で可能な業務を設定し、安心して働ける環境をつくり、雇用確保に努めた。 	<p>・ハラスメント防止のために研修に参加するなど対応した。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">A</th> <th style="width: 25%;">B</th> <th style="width: 25%;">C</th> <th style="width: 25%;">D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・組織的な長時間労働の抑制等に向けた取組は評価できるが依然として改善が必要である。労働関係法令遵守を徹底していただきたい。</p> <p>・また、感染症の状況次第では、出勤抑制等も必要となる事態も想定されるため、引き続き、国等の助成制度を注視しながら、対応を進めていただきたい。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・組織的な長時間労働の抑制等に向けた取組は評価できるが依然として改善が必要である。労働関係法令遵守を徹底していただきたい。</p> <p>・また、感染症の状況次第では、出勤抑制等も必要となる事態も想定されるため、引き続き、国等の助成制度を注視しながら、対応を進めていただきたい。</p>			
A	B	C	D								
<p>・組織的な長時間労働の抑制等に向けた取組は評価できるが依然として改善が必要である。労働関係法令遵守を徹底していただきたい。</p> <p>・また、感染症の状況次第では、出勤抑制等も必要となる事態も想定されるため、引き続き、国等の助成制度を注視しながら、対応を進めていただきたい。</p>											
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 各関係法令に基づき、施設設備などを良好に維持した。長期的かつ安全な維持管理を行うため、故障や破損の早期発見、初期対応を速やかにに行い、被害を最小限に留めた。経年劣化により早期の改修が必要となっている施設構造部分などについては、所管局と連携し、計画的に対応していくよう努めた。 ▼ 事件・事故が発生した場合は、適確に状況を判断し、常に利用者の安全を優先するよう職員の意識を統一した。 ▼ 緊急連絡網により、有事の連絡体制を確保した。 ▼ 損害保険等、必要な保険に加入し、万一の事故に備えた。 	<p>・躯体の不具合等については、早期発見と立入制限等来館者の安全確保のための初期対応を迅速に行った。</p> <p>・経年劣化の激しい消防設備・警報機器等についても、所管局と連携し、計画的に更新・修繕に取り組んだ。</p> <p>・貸室内の照明・空調や据付音響機器、ホール機器類等の整備についても、利用者の安全・快適な利用を優先して取り組んだ。</p> <p>・修繕対応シートを作成し、遅滞無く市教委へ確認できた。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">A</th> <th style="width: 25%;">B</th> <th style="width: 25%;">C</th> <th style="width: 25%;">D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・施設の周辺環境の変化に伴い、センターにおける人の出入りは増加傾向にある。捨得物や不審者への対応など、施設管理担当職員の対応が増えている中でも、丁寧な対応と利用者の安定確保に継続して取り組んでいることは、非常に評価できる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・施設の周辺環境の変化に伴い、センターにおける人の出入りは増加傾向にある。捨得物や不審者への対応など、施設管理担当職員の対応が増えている中でも、丁寧な対応と利用者の安定確保に継続して取り組んでいることは、非常に評価できる。</p>			
A	B	C	D								
<p>・施設の周辺環境の変化に伴い、センターにおける人の出入りは増加傾向にある。捨得物や不審者への対応など、施設管理担当職員の対応が増えている中でも、丁寧な対応と利用者の安定確保に継続して取り組んでいることは、非常に評価できる。</p>											

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

▼ 清掃業務

清掃員を配置し、開館前及び開館中に巡回清掃することで、常に清潔な施設を維持した。ワックス塗布などの定期清掃も計画的に実施した。

・貸室の稼働状況に合わせ、効率よく清掃業務を遂行することで、施設利用者に快適な利用環境を提供することができた。

・指定管理業務の根幹は、施設・設備等の維持管理である。引き続き、その点を意識した事業運営に努めていただきたい。
 ・これまでの業務に加え、感染症対策として、備品等の消毒作業などが必須となっている。
 引き続き、利用者が安心して施設を利用できるよう、清掃の徹底に努めていただきたい。

▼ 警備業務

警備業務実施要領に基づき、専門の警備員を配置し、防災防犯体制を整え、利用者の安全確保に努めた。

・周辺施設の利用を目的とした観光客の増に伴い、施設内の人の出入りがここ数年間、継続して増えてきている。施設の周辺環境の変化についても、警備員との情報共有を徹底することで、不審者対応などをスムーズに行うことができた。

▼ 施設維持管理業務

施設及び設備の機能が長期にわたって、正常に保たれる点検・保守に努め、故障が発生した場合は、速やかに復旧するよう努めた。

・開館から20年が経過しており、施設の老朽化に伴う不具合等も発生してきている。故障に対しては、所管局と連絡をとり迅速な復旧を心がけた。また、利用者の安全確保の視点を欠かすことのないよう、定期的な打合せ等の委託業者との情報共有の体制を徹底的に維持し、施設管理を行なうことができた。

▼ 修繕

施設維持管理業務委託業者と連携をとり、修繕箇所が発生した場合には可能な限り利用者に影響が出ないように速やかに初期対応をとるよう努めた。

・委託業者との連携を密にし、利用者への影響と優先順位を常に意識しながら、修繕を実施することができた。

・修繕については、仕様書上、故障発生時のみならず、故障等が発生すると見込まれる場合の実施も要求水準として求めているところである。

利用者の利便性と安全性の確保、将来にわたる円滑かつ持続的な施設運営のためには、指定管理者による日常的かつ細やかな修繕の実施が必要不可欠であるため、管理上のリスクの高い部分から実施するなど、適切な修繕の実施をお願いしたい。

▼ 備品管理

日頃から備品の点検・保守に努め、破損・故障等が発生した場合は速やかに復旧するよう努めた。

開館時から使用している備品類も多々あることから、利用時の事故等に繋がらないよう、徹底して日常の保守点検に取り組むことができた。
・破損・汚損の激しい備品については、所管局へ更新依頼を行った。

▼ 駐車場管理

「生涯学習センター駐車場管理運営業務仕様書」に基づき、駐車場管理業者と協議を行いながら、適切な運営を行った。

・駐車場の現行契約金額について、実際の業務内容と経費面など詳細を吟味しながら協議するよう委託業者に働きかけている。

▼ 外溝緑地管理

再委託業者に対し、随時適切な指導監督、点検確認を行い、美観の保持、利用者の安全を確保し、快適な緑地環境に努めた。

・年間計画どおりに安全確保、美観の保持ができた。

	<p>▽ 防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 利用者の安全を確保するため、防災計画に基づき、災害などの緊急事態に備えた体制作りを行った。 ▼ 生涯学習総合センター内の4施設合同の防災訓練を定期的実施し、災害時に備えた。令和元年7月、10月、令和2年2月に消防訓練を実施した。 ▼ 災害時に備え、複合施設内他団体において、夜間緊急連絡網の整備・再確認を行い連携を強化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを館内に居なくても情報更新できるようにし、緊急時に備えている。 ・財団の緊急連絡網の他に館内他施設との緊急連絡網も整備し、災害時に備えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、これまで取り組まれてきた防災対策とは別に、新型コロナウイルス感染症への対策が求められる。複合施設では館内連携が必須であることから、引き続き、連絡体制の確保に努めていただきたい。 								
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 生涯学習に関する学習機会の提供及び指導者等の人材育成に関する業務</p> <p>①さっぽろ市民カレッジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 年3期(平成31年4月～令和元年8月、令和元年9～12月、令和2年1～3月)に分け、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系の3つの系で幅広い年齢層に対応して実施した。 【実績】 受講者4,755名(計画4,801名)281講座実施 ▼ 【センター企画講座】 学んだ成果を活動に生かすことができるよう、複数の講座でのつながりづくりを重視し、受講者が講座の中で終了後の活動のイメージを持つことができるなど、市民活動を入口を広げる講座を実施した。減災やSDGs、高齢者運転など受講者の身近なテーマを扱った講座を実施した。 <p>小売業やインバウンドに焦点をあて、「アジア圏客が喜ぶブランディング」「良いもの見極めと仕入れ」、SDGsにも関わる「食品ロスとフードバンク活動」、働いている人が受講しやすい環境を提供するために市民交流プラザを会場にした「マインドfulness」などの講座を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご近所先生講座で人気の高い歴史講座を今年度から職員企画講座として実施した。定員を多く設定できることや年間を通しての講座スケジュールを伝えられることから受講しやすい環境を作ることができた。 ・文化教養系では、話題のものや時事問題などを楽しく学んでもらう生涯学習の入口になる講座を実施した。 	<p>減災に関する講座をボランティアや避難時の実践などさまざまな角度で実施することにより、自分の周りの身近なこととして理解してもらおう工夫を図った。他講座でも現場で活動する講師から話をしてもらうことで、より具体的な市民活動へのイメージを伝えることができた。</p> <p>働き方を考える講座やいろいろな人と働くためのビジネスの観点を学ぶ講座などを行い、同様の悩みをもつ受講者同士の交流を図ることができた。「SNSを利用したPR術」の講座やブランド野菜の講座では、それぞれの分野の最新の取り組みを伝え、受講者の学習意欲を深めることができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <ul style="list-style-type: none"> ・「120講座以上の実施、受講者数3,000名以上」という要求水準を満たしている。 ・なお、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、1講座あたりの受講者数の抑制など、今後は事業規模の縮小等を余儀なくされる可能性もあるため、事業効果をどのように波及させていくかについて、新たな工夫を期待したい。 ・現代的課題について学ぶ機会の提供は、行政が行う学習支援事業としては非常に重要である。引き続き、講座の内容等の充実を期待したい。 </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<ul style="list-style-type: none"> ・「120講座以上の実施、受講者数3,000名以上」という要求水準を満たしている。 ・なお、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、1講座あたりの受講者数の抑制など、今後は事業規模の縮小等を余儀なくされる可能性もあるため、事業効果をどのように波及させていくかについて、新たな工夫を期待したい。 ・現代的課題について学ぶ機会の提供は、行政が行う学習支援事業としては非常に重要である。引き続き、講座の内容等の充実を期待したい。 			
A	B	C	D								
<ul style="list-style-type: none"> ・「120講座以上の実施、受講者数3,000名以上」という要求水準を満たしている。 ・なお、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、1講座あたりの受講者数の抑制など、今後は事業規模の縮小等を余儀なくされる可能性もあるため、事業効果をどのように波及させていくかについて、新たな工夫を期待したい。 ・現代的課題について学ぶ機会の提供は、行政が行う学習支援事業としては非常に重要である。引き続き、講座の内容等の充実を期待したい。 											

それぞれの企業の特性を生かした講座を実施し、企業の社会貢献活動に協力した。

【実績】

アサヒビール:「ビール工場見学と木のコースター作り!」6名

雪印メグミルク:「牛のお話と工場探検」20名、「牛のお話とバターづくり」22名

東洋水産:「子どもラーメン道場」9名

明治:「発見! チョコレートの秘密」29名

(JFE条鋼: 鉄鋼工場見学講座、東洋水産:「だしの秘密」は新型コロナウイルスの影響により、中止とした。)

▼ 【ちえりあ学習ボランティア企画講座】

講座やイベントの企画・運営を行う「ちえりあ学習ボランティア」がアート班、歴史班、社会・環境班、札幌学班、健康班の5つの班に分かれて、それぞれのテーマで12講座実施した。新型コロナウイルス感染拡大予防のため3月実施予定であった3講座を開講中止した。

▼ 【ご近所先生企画講座】

「市民の学び合い」をコンセプトに、市民の学習成果の活用を図りながら、地域における新たな学習コミュニティづくりを進め、札幌市生涯学習センターや他の市内27ヶ所で、136講座実施した。

▼ 【学社融合講座】

学校教育と社会教育が企画段階から連携(協働)し、市立札幌大通高校において、市民と生徒が共に学び合う講座を33講座実施した。講座を修了した生徒は、大通高校の卒業に必要な履修単位として認定された。

・民間企業と連携し、それぞれの企業の特性を生かした講座を実施したことで、講座内容の充実を図ることができた。また、企業の社会貢献活動の支援を行うことができた。

第3次札幌市生涯学習推進構想の「まちの活力を高めるための学びの推進」「学習成果の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実」の実現を目指し、市民が講師(=ご近所先生)となり、自身の知識・特技・経験を生かした講座を市内各地で展開することで、学びを手段とした新たな“縁(=学習縁)”をつくり出すことができた。

・学社融合講座として、高校生と市民による異世代間交流の学びを図ることができた。グループワークなどを通じて講座終了後には、高校生と市民との間の親密度が深まった。

・企業の社会貢献の場と学びの機会を結びつけることは、地域の持つ力を活かすという観点で非常に重要な取組である。既存の連携先に加え、新たな連携先を迎え入れられるよう、連携窓口の設置など、新たな工夫を期待したい。

②学習支援者活用推進事業

▼ さっぽろ市民カレッジ受講修了者が講師となる講座を設けるなど、様々な形で学んだ成果の活用を促進した。

ア 市民講師育成(ご近所先生)

ご近所先生企画講座を開こうとする市民を対象に、講師としての資質向上やスキルアップを図るため、研修会と交流会を内容の充実を図りながら実施した。また、地域での活動を支援するため、「ちえりあ市民講師バンク」への登録を促し、各種事業での活動の場を紹介した。

【実績】研修会4回110名 交流会1回28名

イ メディアボランティア・オンデマンド

16ミリ映写機の映写技術を継承し、市民の学習活動や地域活動で16ミリフィルムを利用できるようにするための「16ミリフィルム上映体験講習会」を実施し、講師役となる「オンデマンド」の活動を支援した。

【実績】「オンデマンド」登録者数4名

16ミリフィルム上映体験講習会 7/27(土)

受講者数 親子8組16名

ウ 市民ファシリテーター

市民ファシリテーター養成講座の受講修了者を対象に、同講座の企画から運営までをサポートしてもらうことで、講座内容の充実を図るとともに、自身の学びを深めてもらう機会を提供した。

【実績】登録者2名

エ ちえりあビデオクルー

センター事業や他団体による地域の活動・行事などのビデオ撮影・編集を依頼した。映像作品をYouTubeに公開したり、主催者に提出することで、地域の活動のPRに活かしている。

【実績】登録者23名

第3次札幌市生涯学習推進構想の「まちの活力を高めるための学びの推進」「学習成果の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実」の実現を目指し、市民が講師(=ご近所先生)となり、自身の知識・特技・経験を生かした講座を市内各地で展開することで、学びを手段とした新たな“縁(=学習縁)”をつくり出すことができた。

・市民一人ひとりの知識や経験を生かす「学びと実践のサイクル」が進み、学びを通じた市民の社会参加を促進することができた。

・学習支援者が積極的に講座の計画や振り返りに取り組む、講師・担当者それぞれの意見を講座へ反映することにより、講座内容の充実を図ることができた。また、学習支援者が講座の企画から運営まで関わることにより、自身の学びを深めることができた。

・地域の行事やイベントなどの他、ロビーコンサートやゆりかごコンサートの撮影・編集を行い映像作品を公開することで、学習成果を生かす場を提供することができた。

・市民講師育成について、育成した講師が将来的には生涯学習センターを介さずとも地域で活躍できるスキームづくりが必要不可欠である。

また、ボランティアに関して、担い手不足など、今後の活動の方向性について課題が残されている団体もある。

そのため、ボランティアの方々の自主性を尊重しながら、活動の継続性と、活動の範囲について検討を進めていく必要がある。

<p>オ コーラスボランティア 「楽しく歌ってボランティア」講座修了者で結成されたグループに同講座の運営補助を務めてもらった。また、施設慰問コンサートを実施した。 【実績】登録者「コスモス」2名、「プリティボイス」10名、計12名</p> <p>カ カメラボランティア カメラボランティア養成講座の受講修了者を対象に、同講座の企画から運営までをサポートしてもらうことで、講座内容の充実を図るとともに、自身の学びを深めてもらう機会を提供した。また、講座修了生のサークルに対して、撮影の場を提供することで、技術の向上に努めてもらった。 【実績】登録者8名</p>	<p>・コーラスボランティアから発足し、現在は自立して活動している団体が、長年にわたり施設慰問コンサートを行うなど学んだ成果を地域で生かす市民を育成することができた。</p> <p>・学習支援者に講座のサポートをしてもらうことで、講座内容の充実を図ることができたとともに、学習支援者にとっても良い学び合いの機会を提供することができた。</p>
<p>③生涯学習関連施設職員研修事業</p>	
<p>▼ 区民センター、地区センターなど生涯学習活動支援を担う施設職員の資質向上を図るため、「コミュニケーションスタイルから伝え方を見直そう」をテーマに研修を行った。 【実績】17施設60名</p>	<p>事前のアンケートで普段の業務の中でコミュニケーションに困る事例を集めることで、実務に即したプログラムを実施した。また、参加者同士のグループワークも盛り込み、情報交換の場を兼ねることができた。</p> <p>・地域の生涯学習を推進していくためには、生涯学習センターのみならず、コミュニティ施設等における地域の生涯学習関連施設の取組の充実が不可欠だができない。その一助として、この研修事業は資質向上とネットワークづくりという重要な役割を担っている。 引き続き、実施回数や実施内容、参加団体について、地域全体の生涯学習の促進という大きなビジョンをもって、毎年度の取組を進めていただきたい。</p>
<p>④生涯学習ボランティア育成事業</p>	
<p>▼ さっぽろ市民カレッジ講座の企画・運営などを行う「ちえりあ学習ボランティア」に、活動の場と知識やノウハウを実践的に学ぶ機会を提供した。 【実績】「ちえりあ学習ボランティア」登録者49名</p>	<p>・ボランティア内で疑問等を聞き取り、各班の講座の企画立案方法を発表しあう場を設けることで、活発な活動につなげた。</p>

⑤インターンシップの受入れ

- ▼ 職場体験の実習生を受け入れ、市民カレッジの企画・立案・運営などを体験する場を提供した。

手稲東中学校 3名、北海道ニセコ高等学校1名、北海道大学1名、札幌市立大学1名、豊明高等養護学校1名、札幌琴似工業高校3名、札幌市立稲積中学校3名

・高等教育機関等と連携し、学生の就業観や就労意欲を高めることができた。
・学生への指導を通して担当職員の実務スキル向上につなげることができた。

▽ 生涯学習に関する調査、研究、企画立案及び啓発に関すること。

- ▼ 市内38コミュニティ施設に対して、胆振東部地震発生時の行動調査を実施した。また、生涯学習センターの他、参考事例があった中央区民センター、東区民センター、里塚・美しが丘地区センターの3施設には、現地に向いてヒアリング調査を実施し、報告書「平成30年度北海道胆振東部地震発生時の行動調査」にまとめた。

・胆振東部地震発生時の行動調査及びヒアリング調査を実施したことにより、市内コミュニティ施設の現状や課題を整理することができた。

・調査研究事業については、その結果を自らの事業に生かすのか、それとも他団体に提供するのかなど、明確なビジョンをもって取組を進めていただきたい。

▽ 生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関すること。

①メディアプラザ運営業務

▼ ア メディアプラザ運営事業

広く学習相談に応じるとともに、生涯学習に関する資料の収集と貸出や資料紹介などのレファレンスサービスを通じて、学習活動の支援を行った。

【実績】来場者数178,135名(前年度200,239名)
利用者数68,535名(前年度72,044名)

特集を組み展示方法を工夫するなどしたことにより、利用促進につなげた。

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、自宅で取り組むことのできる読書活動については、今後も重要な生涯学習のツールとなる。

引き続き、感染症対策を徹底したうえで、資料貸出しに取り組んでいただきたい。

(a) 図書閲覧・貸出

利用者の幅広い調べ学習を支援するため、蔵書約2万5千冊を閲覧及び貸出しに供すると共に、市内の他の図書館・図書室との相互の取り次ぎサービスに対応した。また、図書を活用した生涯学習に取り組むきっかけを作るため、レファレンス業務を行うなど、所蔵資料や職員の専門性を活かした事業を展開した。

【実績】図書・CD貸出数：68,325点

図書システム更新や、新型コロナウイルス感染症対策などによる休館が多く、例年に比べ大幅に休館日が増加したことから利用者数も落ち込んでいる。

(b) 音楽・語学教材・映像の視聴
クラシックを中心とした音楽資料のほか、映像資料、語学教材など約3万点の資料の提供を行った。音楽CDは、館内で鑑賞できるほか館外貸出しにも供する。特集展示やイベントも実施して各種資料の周知と利用促進を図った。

【実績】利用件数

<館内貸出> 音楽教材875件(前年度899件)

映像教材2,293件(前年度3,953件)

語学5件(前年度 0件)

<館外貸出> 【再掲】図書・CD貸出数

68,325点

・CD、DVD、LPなどの音楽・視聴覚教材レファレンスや講座と関連する図書のレファレンスに努めた。

・資料を単に閲覧できるように配架するだけでなく、特集を組み展示方法を工夫することで貸出数が増え、利用者からも好評を得た。

(c) Chie Terrace事業

生涯学習支援スペース「(愛称)Chie Terrace (ちえテラス)」で、メディアプラザ司書やボランティアによる絵本の読み聞かせ、市民カレッジの無料体験講座「カレッジサロン」、オープン3周年記念の音楽コンサート、また、地域住民の学びの交流拠点づくりとして新規事業の「しゃべりあ」を行った。市民が生涯にわたって学び続けることができるように、多種多様な学習環境をつくり、より効果的な活用・交流が出来る場を提供した。

【実績】読み聞かせ 18回参加者544名
コンサート 2回85名
カレッジサロン 2回9名
しゃべりあ 1回5名

イ 学習相談、サークル・講師の紹介
メディアプラザでの学習相談をはじめ、生涯学習に関する相談に幅広く対応するとともに、「ちえりあ市民講師バンク」に登録している講師や、サークル活動の内容を紹介するなど、市民の学習活動に役立つ情報を提供した。あわせて、「ちえりあサークル」に登録している団体の情報をまとめた「サークルガイド」を配布した。「ご近所先生企画講座」の講師が、随時市民講師バンクに登録することで、講師数は増加している。また、生涯学習関連施設職員研修受講者への講師バンク登録者のリストの配布や、生涯学習情報誌「おとなの学び場MAP」にて特集記事設けるなどのPR活動により、相談件数が増加した。

【実績】メディアプラザ学習相談18,613件
ちえりあ市民講師バンク登録者数261名
サークル登録件数:171件

【実績】センター全体での学習相談件数:18,163件

- (1) 講座内容等の問い合わせ件数:289件
- (2) 施設の紹介:1,060件
- (3) 講師の紹介・登録:72件
- (4) サークルの紹介件数:890件
- (5) レファレンス(図書・視聴覚)件数:635件
- (6) その他(利用案内など):1,758件
- (7) メディアプラザ以外での学習相談:

13,913件

②生涯学習情報誌の発行

- ▼ 行政機関、高等教育機関、カルチャーセンター、NPOなど、市民向けの学習機会を提供している施設の特徴や主な開催講座等の情報を掲載する冊子「さっぽろ生涯学習情報 大人の学び場MAP」を発行し、市内の公共施設等で配布した。
また、地下歩行空間で配布会も行い、普段生涯学習関連施設を訪れない市民にも冊子を手にとってもらえる機会を設けた。
【実績】2回発行(8月、2月)各6,000部

・市民が生涯にわたって学び続けることを支援できるよう、新たな学習環境を創出することができた。
・生涯学習に関連する事業をより一層普及啓発できる「空間＝場」として活用し、多くの市民から好評を得ることができた。

・PR活動に力を入れることにより、学習相談件数や市民講師バンクでの講座開講のマッチング件数を増やすことができた。

・市民講師バンクについては、市民の学習成果の活用と、自主的な学習活動を支える重要な仕組みである。

情報誌での特集によるPRなど、広報活動への注力は評価できる。

しかしながら、講師情報の発信や取組の評価の方法、マッチング件数の確認手法など、利用者の目線に立った事業改善が必要不可欠であると指摘せざるを得ない。
引き続き、生涯学習関連施設の職員等、利用の想定される団体へのヒアリングなど、利用しやすい仕組みづくりを優先的に進めていただきたい。

・官民間問わず、広く市内の生涯学習講座情報を掲載した冊子を、計画通り、年2回各6,000部発行することができた。
・生涯学習センターの事業を紹介する特集記事を組むなど毎号の内容に工夫をこらした。

・幅広い層の方々に手に取ってもらえる工夫の継続を評価したい。
引き続き、生涯学習の中核施設として、市内で行われている多様な生涯学習情報を収集し、市民が活用しやすい形で提供する工夫を期待したい。

③子どもの学びガイドの発行

- ▼ 小学校の夏休み前と冬休み前に市内公共施設で開かれる子ども向け事業を紹介する案内チラシ「子どもの学びガイド」を制作し、市立小学校の全児童に配布して、児童と保護者に情報提供を行った。
【実績】4回発行 各93,000部

・小学生向けの生涯学習に関する情報収集及び提供を積極的に行い、学校休業日における児童の自主的な学びを支援することができた。

④ホームページの活用

- ▼ ホームページの活用
講座やイベントなどの情報提供のほか、ちえりあビデオクルーが撮影した動画を配信するなどして、センターの事業を紹介した。利用者からの質問や意見に対する回答を公開した

【実績】ホームページアクセス数992,721件
メールマガジン配信 13回
メールマガジン登録者 2,994名

・Webアクセシビリティを意識しながら更新・管理を行った。
・Webアクセシビリティ試験を行い、AA準拠レベルを維持した。
・貸室の詳細を掲載しより分かりやすい内容にすることができた。
・新型コロナウイルス感染症に係るセンターの対応・運営状況をホームページにて迅速に市民に発信できた。

・HPについて、利用用途や室内写真を詳細に掲載したり、実施事業の結果や講座受講者の感想等を掲載するなど、市民が施設を利用するイメージをつかむことのできるよう内容を充実していく必要がある。
・今後HPによる情報提供はより一層重要性を増すことから、利用者目線での改善を継続していただきたい。

⑤生涯学習センター広報誌の発行

- ▼ 生涯学習センター主催事業や講座及び施設の情報などを提供する広報誌「ら・ちえりあって」を発行し市内の公共施設を中心に配布した。また、LINE公式アカウントを新たに開設し、広報誌を閲覧してもらう機会を増やした。
【実績】6回発行 各回12,000部

・SNSによる情報発信の一つとして、新たにLINE公式アカウントを開設することで、札幌市生涯学習センターの情報を取得しやすい環境を整えることができた。

・情報を得る手段を増やす取組は、利便性向上の点で評価できる。

▽ 生涯学習に関する事業を行う団体との連携及び交流の支援に関すること。

①連携講座の実施

- ▼ 大学と連携して互いの特性を生かした講座を提供した。また、学びを通じた世代間交流・異年齢学習の推進を図った。
【実績】札幌市立大学:10回175名、教育大学:5回48名、北海学園大学:1回13名 合計236名

札幌市立大学との連携については、大学が持っている専門性を十分に生かすことで、市民の多様なニーズに対応する講座を実施した。また、教育大学、北海学園大学講座では学生が企画や運営を行うことで、これまで大学で学んできた専門的知識を生かす機会になった。

・連携事業を通して培ったネットワークを地域に還元していくためには、生涯学習センターが「仲介役」としての役割を果たすための相談機能の充実が求められる。その点を意識した相談体制の在り方について検討を進めていただきたい。

②市立札幌大通高校との学社融合講座の実施

- ▼ さっぽろ市民カレッジの一部講座を校舎内で実施し、市民と高校生が共に学ぶ新たな学びの場を創出した。

・学社融合講座では、現地学習やグループワーク等を通して、高校生と一般市民の学びの交流を一層深めることができた。

③各区との連携事業の実施

- ▼ 市民の生涯学習活動を支援するため、生涯学習センターが有する企画・運営のノウハウを生かし、まちづくり活動に参加するきっかけづくりとなる講座などを実施した。

ア 中央図書館主催の「さっぽろ家庭読書フォーラム」に共催し、小中高生の読書推進活動の紹介などを実施した。
【実績】1回

・メディアプラザにおいて特集コーナーを設置するなどし、読書による生涯学習の楽しさを伝えることができた。

④民間企業との連携講座の実施

- ▼ 雪印メグミルク(株)北海道統括支店、東洋水産(株)、アサヒビール(株)、(株)明治と連携し、それぞれの企業の特性を生かした講座を実施し、企業の社会貢献活動に協力した。
【実績】5回86名

・民間企業と連携し、それぞれの企業の特性を生かした講座を実施したことで、講座内容の充実を図ることができた。また、企業の社会貢献活動の支援を行うことができた。

▽ 生涯学習に関する市民の自主活動及び交流の支援業務

①ちえりあフェスティバル

- ▼ ちえりあの開館(平成12年8月)を記念して、館内の4施設(生涯学習センター、宮の沢若者活動センター、札幌市教育センター、リサイクルプラザ宮の沢)が共同で、生涯学習活動に気軽に触れることができる多数のイベントを行った。

・幅広い年代層の市民に対して生涯学習の普及啓発を図ることができた。
・来場者が自由に撮影できるインスタスポットを設置したところ、SNSに投稿されている様子がみられるなど好評を得ることができた。

・複合施設内に留まらず、地域団体にも参加してもらうなど、生涯学習の普及啓発及び交流の機会として内容が拡充されている点は評価したい。
生涯学習推進の担い手は行政に留まらないことから、引き続き、様々な団体との連携を通して事業内容が充実されていくことを期待したい。

- ▼ 昔遊び体験や世界の言葉を使ったじゃんけんなどセンターが有する事業のノウハウを生かしたイベントや、さまざまな世代が楽しめる北海道大学落語研究会口演などを実施した。

【実績】17,514名(1日間)

②サークル発表会

- ▼ ちえりあや市内各施設を拠点に活動している団体に学習成果を披露する場を提供することにより、活動意欲の向上及び活動の活性化を図るとともに、市民のサークル活動への興味・関心を高めることができた。

【実績】

(展示部門) 参加19団体(8日間)

(舞台部門) 参加74団体 観覧者2,348名(4日間)

・学習成果の発表の場として、サークル参加者の活動意欲の向上を図るとともに、市民への鑑賞の場を設けることで、サークル活動や学習活動に対する興味・関心を高め、生涯学習に携わるきっかけづくりに繋げることができた。

▽ 学習成果の発表及び鑑賞の支援に関すること。

①ちえりあフェスティバル(再掲)

- ▼ ちえりあの開館(平成12年8月)を記念して、館内の4施設(生涯学習センター、宮の沢若者活動センター、札幌市教育センター、リサイクルプラザ宮の沢)が共同で、生涯学習活動に気軽に触れることができる多数のイベントを行った。

昔遊び体験や世界の言葉を使ったじゃんけんなどセンターが有する事業のノウハウを生かしたイベントや、さまざまな世代が楽しめる北海道大学落語研究会口演などを実施した。

【実績】17,514名(1日間)

・幅広い年代層の市民に対して生涯学習の普及啓発を図ることができた。
・来場者が自由に撮影できるインスタスポットを設置したところ、SNSに投稿されている様子がみられるなど好評を得ることができた。

・学習成果の発表機会を設けることは、生涯学習事業を行う上で重要な取組であることから、今後も市民の学んだ成果を発表し、共有できる場として、事業が展開されていくことを期待する。

②サークル発表会(再掲)

- ▼ ちえりあや市内各施設を拠点に活動している団体に学習成果を披露する場を提供することにより、活動意欲の向上及び活動の活性化を図るとともに、市民のサークル活動への興味・関心を高めることができた。

【実績】

(展示部門) 参加19団体(8日間)

(舞台部門) 参加74団体 観覧者2,348名(4日間)

・学習成果の発表の場として、サークル参加者の活動意欲の向上を図るとともに、市民への鑑賞の場を設けることで、サークル活動や学習活動に対する興味・関心を高め、生涯学習に携わるきっかけづくりに繋げることができた。

③ちえりあロビーコンサート

- ▼ 市内や近郊で音楽活動に取り組んでいる個人、団体から出演者を公募し、音楽活動の発表の場を提供するとともに、市民に演奏を気軽に聴いてもらう機会を提供した。

【実績】参加9団体 来場者848名

・様々なジャンルの音楽を楽しむ機会を提供しており、リピーターも多く市民の音楽鑑賞の場として定着している。

▽ 生涯学習センターの施設の使用に供すること。

①貸室事業

- ▼ 市民の学習活動の場として、ちえりあホール及び各種研修室を条例に基づき有料で提供した。また、利用者の利便性を考慮し、4月からWeb仮予約の予約保持期間を1日から7日間に延長した。

・鍵とともに貸室までの案内図や利用案内を渡すなど、分かりやすく貸室運営した。
・貸室の案内にHPを活用し、利用者の利便性向上に努めた。

・細やかなサービス改善の積み重ねが後段の満足度にも表れており、取組を評価したい。
引き続き、利用者サービスの向上に向けて、取組の見直しを積み重ねていただきたい。
・また、貸室事業は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けることから、引き続き感染症対策を徹底のうえ、市民が安心して学習活動に取り組むことのできる環境の維持に努めていただきたい。

②施設の有効活用

- ▼ ギャラリー及びアートウォールを市民の学習成果の発表の場として提供した。

・学習成果発表の場となっているとともに、施設内の賑わいに繋がっている。
・作品発表の場として好評を得ている。

・ロビースペース等の賑わいづくりのため、自主事業での新たな有効活用を期待したい。

▽ その他生涯学習センターの設置目的を達成するために必要な事業

①カルチャーナイト

- ▼ 夜間、公共施設などを開放し、文化活動の発信を通じて、市民の地域文化への関心を高めるとともに、新しい地域文化の創造と発展を図る「カルチャーナイト」に参加し、市立札幌開成中等教育学校生と連携し「こんなコマ回るの？ 不思議な形のコマづくり」や、子ども向けイベントとして「でっかくあそぼう！ ビッグすごろく」を1階ロビーで開催した。
【実績】135名

・市立札幌開成中等教育学校の2回生4名が参加者への指導を行うことで、異世代交流をはかることができた。
でっかくあそぼう！ ビッグすごろく」は子どもたちが熱中して会場全体が盛り上がり大好評を得た。

・センターに親しんでもらうための取組としては評価したい。
映画会等の事業への参加がほかの事業への参加につながるなど、市民の学びのきっかけづくりとなることを期待したい。

②ミュージックシアター

- ▼ クラシック、ジャズ、ミュージカルなどに親しむ機会を提供するため、生涯学習センターが所蔵する多様な映像教材をちえりあホールで上映した。
【実績】3回184名

・市民に気軽に音楽に親しむ機会を提供することができた。
・さっぽろ市民カレッジの講座案内を盛り込み受講へつなげることができた。
・メディアプラザ所蔵のDVDを使用することにより、メディアプラザ利用促進に繋がった。

③ちえりあ映画会

- ▼ 映画に親しむ機会を提供するため、生涯学習センター等が所蔵する多様な映像教材をちえりあホールで上映した。邦画では、ボランティア団体の「ムービー北海道」の協力を得て、目の不自由な人も鑑賞できるよう副音声ガイドサービスを実施した。
また学校の長期休業期間には、親子で楽しめる作品を上映した。

【実績】10回2,588名(前年度 12回3,177名)
大人向け7回「最高の人生の作り方」ほか
子ども向け3回「ミッキーマウス」ほか

・センターが所有する資料を市民に広く紹介するとともに、ホール機能を有効に活用できた。
・映画鑑賞による生涯学習意欲の喚起に加え、各作品の上映前に教育的要素のある視聴覚教材を上映することで市民へさまざまな情報を発信し、生涯学習の普及啓発を図ることができた。

④ちえりあCDコンサート

- ▼ 生涯学習センター所蔵の音響機器と視聴覚資料を活用し、良質な音響環境で名演奏に親しむ場を提供するとともに、メディアプラザの貸出しCDの利用促進を図った。
【実績】11回312名(前年度 12回456名)
「愛の賛歌 シャンソン名歌集」「ハンドベル・クリスマス」ほか

・分かりやすいなかにも専門性を持たせた資料を配布した他、クラシック以外のジャンル(ジャズや三味線など)を取り上げたことにより、新たな参加者層を獲得でき、入場者増につなげることができた。
・これまで実施したCDコンサートを紹介する特集棚をメディアプラザに設けることで、この特集棚のCDが頻繁に貸出しされ、利用増につなげることができた。

	<p>⑤ゆりかごコンサート</p> <p>▼ 子育て中の親とその子どもに気軽に音楽を楽しんでもらえるよう、乳幼児の声や動きを気にせず鑑賞できるコンサートを開催した。 【実績】1公演197組394名(前年度 110組220名) 出演:トランペットアンサンブルLaChoce</p> <p>⑥北海道吹奏楽フェスティバル</p> <p>▼ 異世代の交流と教育プログラムの実践をメインに、プロ講師やアマチュア演奏家と中学生や高校生が合奏しながら音楽を楽しむコンサートを開催し、吹奏楽活動の支援と普及を図った。 【実績】参加校10校 2公演920名 (前年度 20校 3公演940名)</p>	<p>・リピーターが多く、アンケートの満足度も高いことから、乳幼児連れの親たちが気兼ねなく参加し、親子で音楽に楽しむことができる場を提供するための事業として定着してきている。</p> <p>・センターが実行委員会との間を取り持ち、みなみの杜高等支援学校音楽部に出演いただくなど、障がいの有無に関係なく、あらゆる方々に音楽を楽しむプログラムを提供することができた。</p>									
(5)施設利用に関する業務	<p>▽ 利用件数等 別添のとおり</p> <p>▽ 不承認0件、取消し570件、減免1,597件、還付710件 (変更による還付含む)</p> <p>▽ 利用促進の取組</p> <p>▼ 丁寧な対応で、できる限り利用者のニーズに沿うよう貸室提案をした。</p> <p>▼ 新型コロナウイルスの影響を受ける前の1月までは、前年度よりも利用件数が上回った。</p> <p>▼ 新型コロナウイルスの影響により、還付件数が増えた。</p>	<p>・Web仮予約システムを活用し、受付を円滑にすることができた。</p> <p>・利用者への配布物に鍵だけではなく案内図や注意事項を一緒に渡したり、物件利用を利用途中でも簡便に手続きできるようにシステム改修したりと、市民がより利用しやすくなる施設運営を行った。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・生涯学習センターでは、R1年度は貸室利用率80.6%を目標値としていたところ、79.8%となり、目標は未達成となった。新型コロナウイルスの影響が大きかった点は否めない。</p> <p>・また、感染症によるキャンセルや還付対応に迅速に対応したことは評価したい。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・生涯学習センターでは、R1年度は貸室利用率80.6%を目標値としていたところ、79.8%となり、目標は未達成となった。新型コロナウイルスの影響が大きかった点は否めない。</p> <p>・また、感染症によるキャンセルや還付対応に迅速に対応したことは評価したい。</p>			
A	B	C	D								
<p>・生涯学習センターでは、R1年度は貸室利用率80.6%を目標値としていたところ、79.8%となり、目標は未達成となった。新型コロナウイルスの影響が大きかった点は否めない。</p> <p>・また、感染症によるキャンセルや還付対応に迅速に対応したことは評価したい。</p>											

(6)付随業務	▽ 広報業務		A B C D
	<p>▼ 広報誌の発行(再掲) 生涯学習センター主催事業や講座及び施設の 情報などを提供する広報誌「ら・ちえりあって」を 発行し市内の公共施設を中心に配布した。ま た、LINE公式アカウントを新たに開設し、広報誌 を閲覧してもらう機会を増やした。 【実績】6回発行 各回12,000部</p> <p>▼ ホームページの活用 講座やイベントなどの情報提供のほか、ちえり あビデオクルーが撮影した動画を配信するなど して、センターの事業を紹介した。利用者からの 質問や意見に対する回答を公開した</p> <p>【実績】ホームページアクセス数992,721件 メールマガジン配信 13回 メールマガジン登録者 2,994名</p> <p>▽ 引継ぎ業務</p> <p>▼ 各事業の資料(起案、報告書)等を必要年数保 管し、後続の担当者が円滑に業務を引き継げる ようにした。</p>	<p>・Webアクセシビリ ティを意識しながら 更新・管理を行っ た。 ・Webアクセシビリ ティ試験を行い、AA 準拠レベルを維持 した。 ・貸室の詳細を掲載 しより分かりやすい 内容にすることがで きた。 ・新型コロナウイルス 感染症に係るセン ターの対応・運営 状況をホームペー ジにて迅速に市民 に発信できた。</p> <p>・規則に則った文書 保管を行った。</p>	<p>・公の施設がその 設置目的を果た すためには、市民 への適切な情報 提供が必要不可 欠である。 HPについては、 掲載内容をはじ め、改善の余地が 残されていること から、引き続き、 利用者の立場に たって内容の見直 しに取り組んでい ただきたい。</p> <p>・業務の継続性の 確保のためには 欠かすことができ ない取組であるた め、適切な引継ぎ により、遺漏のな い事務執行に努 めていただきた い。</p>

2 自主事業その他		A	B	C	D
▽ 自主事業 ▽ 収益事業 ① レストラン事業 ▼ ちえテラスに隣接したスペースにおいてカフェ事業を運営し、来館者へ飲食等を提供した。 ② 自動販売機事業 ▼ 売上高4,544千円(計画 4,500千円)	・サークル活動の後に打合せや調べ物をするなど幅広い用途で利用されており、来館者の生涯学習活動に対する補完的な空間づくりやリラックスできる居場所づくりをすることができた。 ・2月末からのコロナウィルス対策による利用者の減少による減収を見込んでいたが、秋頃までは周辺施設への観光客などによる来館者が多く、売上げが好調であり計画を上回る売上手数料収入につなげることができた。				・利用者の利便性向上に資する取組として評価したい。 自主事業については、サービスの向上と収益性の両面を見据えた事業展開を期待したい。
▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ▼ 委託業務、物品の購入などは、市内の企業に発注を心がけた。 ▼ 障害者雇用(令和元年度 1名)	・委託、物品の発注等は、市内企業を積極的に活用することができた。				

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	貸室利用者アンケートは今年度から利用ごとに記述式のアンケートを回収。メディアプラザ利用者、講座受講者、期間中の主催事業参加者を対象に記述式のアンケートを実施。 (期間:貸室 1年間 貸室以外 令和2年2月1日～2月28日)
結果概要	メディアプラザ及びセンター事務室において、アンケートに寄せられた意見及びそれに対する回答を掲示することとする。 ●職員の接遇 良かった:89.6% 普通:10.2% 良くなかった:0.1% ●総合満足度 満足:92.6% 普通:7.1% 不満:0.3%
利用者からの意見・要望とその対応	【意見】 ホワイトボードが消しにくい。 【対応】 札幌市教育委員会に依頼し、新しいものに更新した。

・頂いたご意見に、迅速に回答した。物品更新などは所管局に随時更新依頼をかけた。

A	B	C	D
<p>・総合満足度について、要求水準である80%を達成している。 アンケートについては、貸室利用者、講座受講者のみならず、その他事業参加者からも偏りなく協力いただけるよう工夫していただきたい。</p>			

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R元年度計画	R元年度決算	差(決算-計画)
収入	463,651	459,820	▲ 3,831
指定管理業務収入	454,904	452,341	▲ 2,563
指定管理費	348,900	348,900	0
利用料金	86,695	79,614	▲ 7,081
その他	19,309	15,747	▲ 3,562
受取補償金	0	8,080	8,080
自主事業収入	8,747	7,479	▲ 1,268
支出	475,640	458,346	▲ 17,294
指定管理業務支出	466,540	452,200	▲ 14,340
自主事業支出	9,100	6,146	▲ 2,954
収入-支出	▲ 11,989	1,474	13,463
利益還元	0	0	0
法人税等	506	696	190
純利益	▲ 12,495	778	13,273

▽ 説明

- ▼ 利用料金収入とは、施設利用料や物件使用料、駐車場利用料などであり、計画より7,081千円の減となった。
- ▼ その他収入とは、さっぽろ市民カレッジ受講料が主なものであり、3,562千円の減であった。
- ▼ 自主事業収入は、自動販売機、飲食店の売上手数料である。新型コロナウイルス感染症に伴う利用自粛や休館等の影響もあり、1,268千円計画値を下回った。

・新型コロナウイルス感染症の影響で貸室利用者が減少した。また、感染拡大防止のため講座や事業を中止した。このことから、収入全般が減収した。
・光熱水費は来館者に配慮しつつ可能な限り節制に努めたが、原油価格高騰等の影響で支出金額が計画値を上回った。また、業務の効率化・合理化など事務・事業の見直しを進め、超勤時間の短縮することで費用の減額に繋がったが、削減額は限界に近づきつつある。
・消耗品費や印刷製本費等の経費削減に努めた。

A	B	C	D
<p>・引き続き、業務の効率化・合理化を中心とした収支改善に向けた取組を継続していただきたい。</p>			

<ul style="list-style-type: none"> ▼ 退職や育児休業などで欠員が発生し、定数を下回る職員数で業務を執行することとなった。あわせて全体的に超過勤務を減らすよう業務内容及び事務分掌を見直した結果、人件費が抑制された。 ▼ 指定管理業務支出の内訳では、新型コロナウイルス感染症防止のため2月から利用者が減少しており、収入がかなり落ち込んだ。最終的に計画より7,081千円の減となった。 	
---	--

<確認項目> ※評価項目ではありません。				
▽ 安定経営能力の維持 ▼ 公益財団法人として求められる水準を満たすため、主たる事業である公益目的事業において利益を得ることはできていないが、貸室の利用率やさっぽろ市民カレッジの受講者数などは一定の水準を保っている。		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">適</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">不適</td> </tr> </table>	適	不適
適	不適			
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ▼ 札幌市個人情報保護条例の趣旨に則り「公益財団法人札幌市生涯学習振興財団が保有する個人情報の保護に関する規定」及び「個人情報の取扱いについて」を制定し、個人情報を適正に管理した。 ▼ 管理サイト全体の暗号化、個人情報パスワード保護に加えチェック体制の強化に努めている。 ▼ 主な個人情報について、紙媒体は鍵付きキャビネットで、電子データはパスワード管理にて、厳格な保守管理の下、適正に取扱っている。 ▼ 情報公開については、ホームページ上で個人情報の取扱いについて、基準及び規程を公開している。 ▼ 財団の定款、役員名簿、事業計画、事業報告、財務諸表等をホームページで公開しており、センターの運営状況の積極的な情報開示を行っている。 ▼ 受託者やその他契約の相手方について、「札幌市暴力団の排除の推進に関する条例」と「暴力団の排除にかかる照会事務マニュアル」に基づき、暴力団を排除している。		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">適</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">不適</td> </tr> </table>	適	不適
適	不適			

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>幅広い年齢層を対象に、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系を合わせて281講座を実施した。市民の様々な学習ニーズに対応するため、生涯学習センター企画講座に加え、ちえりあ学習ボランティアやご近所先生(市民講師)の企画・運営による講座や大学・企業とも連携した講座を実施するなど、市民に多様な学習機会を提供した。</p> <p>さらに、市立札幌大通高校を会場として高校生と大人が一緒に学ぶ「学社融合講座」では、受講者の世代を超えた交流を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ成果を活動に生かすことのできる講座の充実。 ・身近なテーマや現地学習などを通じて、楽しく気軽に札幌を知り、これからの地域について考えることのできるような講座の実施。 ・受講者が講座の中で修了後の活動のイメージを持てるよう、さまざまな団体と連携し、見学や実習など実際の活動に直結した情報提供などを行う。 ・新たな年間目標に沿った講座の実施①SDGsのエッセンスをいろいろな講座に入れる。②札幌に住んで良かったと思える居場所・学びづくり。③実際に話を聞いて、みんなで話して、自分ごととして考える。
<p>第3次札幌市生涯学習推進構想の「まちの活力を高めるための学びの推進」「学習成果の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実」の実現を目指し、市民が講師(=ご近所先生)となり、自身の知識・特技・経験を生かした講座を市内各地で展開することで、学びを手段とした新たな“縁(=学習縁)”をつくり出した。</p>	<p>より効率的な事業展開を意識しながら、2021年度のちえりあ休館中の他会場での講座数拡充を目指し、図書館等の連携会場との連携体制を深めていく。</p>
<p>貸室事業については、Web仮予約の保留期間を7日間に延長し貸室申込者の利便性向上を図った。</p> <p>また、貸室についてわかりやすく案内できるようHPを活用した。</p> <p>鍵の受渡しの際に、貸室までの案内図や、利用案内を提示し、分かりやすい利用に努めた。</p>	<p>・次年度は改修工事が実施されるため、教育委員会と連絡を密にとり、取組を進めたい。休館期間中は別会場にて講座等を実施していく。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>・さっぽろ市民カレッジについて、要求水準である120講座を大幅に上回る281講座が実施された。また、第3次札幌市生涯学習推進構想の重点施策として、「まちの活力を高める学びの推進」の実現に向け、市民活動系、産業・ビジネス系の講座数の充実が図られたほか、同じく構想の重点施策である「身近な地域で学びを深められる環境の整備」の実現に向け、地域の図書館と連携した取組を進められた点も評価したい。</p> <p>構想の中には、生涯学習センターを核に据えた施策が多数あるため、引き続き、構想実現を意識した事業展開を進めていただきたい。</p> <p>・また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大下において、キャンセルや休館等の各種対応に迅速に取り組みされたことについて評価したい。収束の目途は見えず長丁場が予想されるが、引き続き、感染症対策徹底のうえ、市民が安心して学習活動に取り組める環境づくりに努めていただきたい。</p>	<p>・令和元年6月、本市附属機関である社会教育委員会議より報告書「地域の身近な施設を活用した生涯学習について」が手交された。生涯学習センターの課題として、「地域の生涯学習を支援する取組の充実」について言及されたところである。ここでは、生涯学習センターが中核施設として本市全体の生涯学習を推進していくためには、自ら学習機会を提供する、活動場所を提供するといった取組だけでなく、これまでの活動を通して蓄積した企画ノウハウ、講師情報やネットワークを生かして、地域の生涯学習に携わっている施設や団体等を支援する取組の必要性が述べられている。</p> <p>本報告書は、第3次札幌市生涯学習推進構想の実現に向けた具体策であることから、引き続き、本書において提言された内容を踏まえた事業展開を期待したい。</p> <p>・また、H30年度に本市が実施した「生涯学習情報の収集・発信に関する調査研究業務」において、生涯学習センターのHP充実が提言されるなど、生涯学習センターHPの活用方法については依然として課題が残されている。特に、コロナ禍においては、来館による情報提供が難しい場合もあるため、HPの有効活用について検討を進めていただきたい。</p> <p>・収支状況について、人員削減等の経営努力もあり黒字となった。引き続き、安定経営に努めていただきたい。</p>

令和元年度 研修会等案内及び参加一覧

(公財)札幌市生涯学習振興財団 施設課

	研修会等名	主催団体	日程	会場	参加者	区分	
						指定管理	内容
1	札幌市環境マネジメントシステム(EMS)関係様式の書き方研修(平成31年度EMS研修)	札幌市 環境管理事務局	4/19(金)	札幌市役所本庁舎	正職員1名	N	環境
2	2019年度全国生涯学習センター等交流会	国立教育制作研究所 社会教育実践研究センター	5/23(木)~24(金)	国立教育制作研究所社会教育実践研究センター(東京)	正職員1名	G	業務知識
3	消費税軽減税率制度等説明会	札幌商工会議所 生活関連商業部会	5/28(火)6/3(月)	豊平区民センター 北海道経済センター	正職員2名	E	組織運営
4	北海道社会教育セミナー	北海道立生涯学習推進センター	5/30(木)~31(金)	道民活動センターかでの2.7	正職員2名	H	業務知識
5	全国公立文化施設協会研究大会	(公社)全国公立文化施設協会	6/6(木)~7(金)	豊中市立文化芸術センター	正職員1名	D	業務知識
6	救命講習会	札幌防火管理者協会	7/2(火)	札幌サンプラザ	正職員1名	M	防火・防災
7	救命講習会	札幌防火管理者協会	7/3(水)	ホテルヤマチ	正職員1名	M	防火・防災
8	衛生管理者免許試験準備講習会	(公社)北海道労働基準協会連合会	7/3(水)~7/5(金)	札幌市産業振興センター	正職員1名		その他
9	消費税軽減税率制度 キャッシュレス決済対応推進	北海道商店街振興組合連合会	8/9(金)	9日:TKPガーデンシティPREMIUM 19日:札幌サンプラザ	正職員3名	I	会計・経理
10	令和元年度防火管理セミナー	札幌防火管理者協会	8/21(水)	かでの2・7	正職員2名、契約職員1名	M	防火・防災
11	図書館員の実践力養成研修	札幌市教育委員会中央図書館	8/28(水)	中央図書館	正職員1名	I	業務知識
12	第60回北海道図書館大会	北海道図書館連絡会議	9/4(水)~5(木)	札幌市教育文化会館	正職員2名 契約職員5名	I	業務知識
13	事業者向け省エネルギー実践セミナー	札幌市環境局	9/11(水)	札幌市教育文化会館	正職員1名	N	環境
14	令和1年度第3回指定管理者セミナー	(一社)指定管理者協会	9/13(金)	札幌国際ビル	正職員1名	I	業務知識
15	消費税軽減税率セミナー	札幌商工会議所	9/17(火)	北海道経済センター	正職員1名	E	会計・経理
16	令和元年度防火管理技術講習会	札幌防火管理者協会	9/18(水)	札幌コンベンションセンター	正職員1名	M	防火・防災
17	特定建築物や給水設備等の維持管理に関する講習会	札幌市保健福祉局	9/19(木)	札幌市保健所	正職員1名	I	業務知識
18	特定建築物や給水設備等の維持管理に関する講習会	札幌市保健福祉局	9/20(金)	札幌市保健所	正職員1名	I	業務知識
19	軽減税率制度等説明会	札幌国税局	9/25(水)	JRタワープラニスホール	正職員1名	I	会計・経理
20	令和元年度全道図書館専門研修	札幌市教育委員会中央図書館	10/9(水)~10(木)	札幌市中央図書館	正職員1名	I	業務知識
21	図書館のためのブックフェア2019	(株)図書館流通センター北海道支社	10/9(水)~10(木)	札幌総合卸センター共働開館	正職員1名 契約職員2名	I	業務知識

	研修会等名	主催団体	日程	会場	参加者	指定管理	内容
22	DMESSEセミナー	大丸(株)	10/10(木)～11(金)	ホテルクラブイーサッポロ	正職員1名	I	業務知識
23	図書館員のための高齢者・障がい者サービス研修	札幌市教育委員会中央図書館	10/23(水)	中央図書館	正職員1名	I	業務知識
24	平成31年度文化庁委託事業「地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会(北海道地域)」	(公社)全国公立文化施設協会	11/11(月)～13(水)	札幌市民交流プラザ	正職員2名	C	業務知識
25	北海道社会教育フォーラム2019	北海道社会教育フォーラム2019実行委員会	11/23(土)	北海学園大学	正職員1名 契約職員1名	I	業務知識
26	図書館員の実践力応用研修	札幌市教育委員会中央図書館	11/27(水)	中央図書館	契約職員1名	I	業務知識
27	絵本作家による児童サービス研修	中央図書館	12/11(水)	中央図書館	契約職員1名	I	業務知識
28	令和元年度札幌市公式ホームページ担当者レベルアップ研修	札幌市(総務局)	12/19(木)	カナモトホール	正職員1名	I	業務知識
29	全道図書館専門研修(子ども読書/地域支援)	札幌市教育委員会中央図書館	1/17(金)	北海道立図書館	契約職員1名	I	業務知識
30	第2回ホール連絡協議会	㈱北海道新聞社	1/22(火)	北海道新聞社	正職員1名	I	業務知識
31	令和元年度防火管理実務講習	札幌防火管理者協会	2/7(金)	かでの2・7	正職員1名	M	防火・防災
32	全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント・舞台技術研修会	(公財)全国公立文化施設協会	2/6(木)～7(金)	国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)	正職員1名	C	業務知識
33	視聴覚資料担当者会議	中央図書館	2/26(水)	中央図書館	正職員1名	I	業務知識
34	フィードバック研修	中央図書館	3/11(水)	中央図書館	正職員1名	I	業務知識
	生涯学習センター新採用職員研修	(公財)札幌市生涯学習振興財団	4/1(月)	生涯学習センター	新採用契約職員3名 パート1名	A	接遇・接客 労務 業務知識
	生涯学習センター新採用職員研修	(公財)札幌市生涯学習振興財団	2/1(土)・2/3(月)	生涯学習センター	契約職員1名	A	接遇・接客 労務 業務知識
	生涯学習関連施設職員研修	(公財)札幌市生涯学習振興財団	2/12(水)	札幌市生涯学習センター	正職員1名 契約職員3名		その他
	生涯学習関連施設職員研修	(公財)札幌市生涯学習振興財団	2/20(木)	札幌市生涯学習センター	正職員4名 契約職員3名		その他
	社労士研修 一般職向け	(公財)札幌市生涯学習振興財団	2/28(金)・3/17(火)・3/28(水)	2/28 青少年科学館 3/17 生涯学習センター	正職員4名 契約職員11名		その他

▽ 生涯学習センター貸室別利用件数等

		H29実績	H30実績	R1計画	R1実績			H29実績	H30実績	R1計画	R1実績
ホール	件数(件)	613	587	569	565	研修室1	件数(件)	720	669	684	647
	人数(人)	126,913	143,666	139,330	137,830		人数(人)	9,303	8,839	9,042	8,643
	稼働率(%)	75.8	72.9	70.7	72.7		稼働率(%)	93.7	91.6	93.7	87.6
音楽スタジオ1 (副調整室)	件数(件)	743	757	740	682	研修室2	件数(件)	652	598	618	574
	人数(人)	7,027	8,223	8,041	7,383		人数(人)	11,315	11,391	11,778	10,790
	稼働率(%)	94.5	94.8	92.7	88.5		稼働率(%)	85.9	82.4	85.2	83.6
音楽スタジオ2	件数(件)	813	824	834	760	研修室3	件数(件)	602	563	567	583
	人数(人)	8,273	9,622	9,742	8,114		人数(人)	8,058	8,860	8,915	10,022
	稼働率(%)	97.1	96.0	97.2	92.8		稼働率(%)	84.1	80.1	80.6	83.3
演劇スタジオ1	件数(件)	857	860	844	793	研修室4	件数(件)	489	503	538	525
	人数(人)	19,945	20,682	20,303	18,878		人数(人)	6,383	8,986	9,620	9,233
	稼働率(%)	97.4	98.3	96.5	95.4		稼働率(%)	74.4	72.3	77.4	77.3
演劇スタジオ2	件数(件)	806	854	838	833	研修室5	件数(件)	559	528	571	528
	人数(人)	8,480	11,021	10,809	10,688		人数(人)	9,251	15,751	17,047	15,636
	稼働率(%)	98.8	98.8	96.9	96.0		稼働率(%)	82.4	77.8	84.2	81.6
サークル活動室1	件数(件)	829	818	815	796	研修室6	件数(件)	542	517	538	502
	人数(人)	7,097	8,833	8,797	8,361		人数(人)	9,096	15,689	16,327	15,259
	稼働率(%)	97.7	98.6	98.2	96.0		稼働率(%)	81.3	78.7	81.9	77.0
サークル活動室2	件数(件)	801	800	810	758	コンピュータ 研修室	件数(件)	262	241	257	156
	人数(人)	8,807	9,145	9,261	8,725		人数(人)	4,271	5,245	5,599	3,358
	稼働率(%)	95.1	94.8	96.0	92.2		稼働率(%)	49.6	44.4	47.4	31.9
サークル活動室3	件数(件)	713	735	717	686	アトリエ	件数(件)	333	356	379	372
	人数(人)	9,087	8,244	8,047	315		人数(人)	5,020	7,195	7,665	7,845
	稼働率(%)	93.1	92.2	90.0	90.5		稼働率(%)	63.7	64.3	68.5	62.4
サークル活動室4	件数(件)	667	670	655	695	陶芸室	件数(件)	222	228	211	242
	人数(人)	10,649	11,909	11,648	13,567		人数(人)	2,235	2,899	2,685	3,115
	稼働率(%)	92.2	91.4	89.4	91.1		稼働率(%)	52.4	55.6	51.5	54.0
サークル活動室5	件数(件)	618	650	635	646	映像スタジオ	件数(件)	510	556	506	562
	人数(人)	10,116	11,456	11,185	11,585		人数(人)	10,606	16,088	14,643	14,948
	稼働率(%)	87.9	88.8	86.7	85.6		稼働率(%)	81.0	81.3	74.0	79.9
大研修室	件数(件)	510	514	462	508	講堂	件数(件)	448	439	431	448
	人数(人)	33,426	41,407	37,256	42,080		人数(人)	55,572	64,738	63,623	69,900
	稼働率(%)	74.9	77.8	70.0	75.3		稼働率(%)	68.3	69.7	68.5	68.4
中研修室1	件数(件)	494	510	477	523	和室・茶室	件数(件)	422	432	341	422
	人数(人)	19,679	24,966	23,336	25,329		人数(人)	3,631	4,035	3,186	3,642
	稼働率(%)	77.8	78.1	73.0	78.7		稼働率(%)	70.6	73.2	57.8	69.0
中研修室2	件数(件)	595	594	571	545	全体	件数(件)	14,820	14,803	14,604	14,351
	人数(人)	21,077	26,515	25,505	25,741		人数(人)	425,317	505,405	493,392	490,987
	稼働率(%)	89.0	89.3	85.9	83.0		稼働率(%)	82.4	81.7	80.6	79.8

●R1計画値について

稼働率のR1計画値は、指定管理者提案書(H30～H34)の中で提出した目標数値に基づく値となっている。
件数及び人数の計画値は算出していないため、稼働率の計画値でH30実績を割り返し、目安の数値を出している。

●R1実績は 3月31日時点で手続きが終了している数値である。